

安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

【目次】

- ❖ 安心・安全の科学研究教育センターニュースの創刊にあたって
- ❖ 文部科学省科学技術振興調整費 新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の概要
- ❖ 教職員の紹介
- ❖ センターからのお知らせ、育成ユニット履修生募集、編集後記

創刊号



安心・安全の科学研究教育センターニュースの創刊にあたって

安心・安全の科学研究教育センター長 関根 和喜

市民生活や産業での事故、化学物質による被害などの多発、都市環境や地球環境の激変などによって、“安全で安心な社会の構築”ということが主要国策の一つとされ、それを実現するための科学技術の重要性が広く認識されています。現在、進行中の第2期科学技術基本計画にもこのスローガンが掲げられており、平成18年度から始まる第3期の基本計画には、安心・安全に係わる科学技術の推進が政府の大きな柱となる施策として盛り込まれることが予想されます。

大学においても、労働安全衛生法への対応、毒劇物取締法やPRTR法（化学物質排出把握管理促進法）などによる化学物質管理の促進、環境配慮活動促進法による環境報告書作成の義務づけなど、様々な規制への対応が求められています。特に本学は、安心・安全の分野でこれまで我が国をリードしてきた実績があり、規制に対応するのみではなく、関連の研究・教育の推進や情報発信をも期待されています。このような背景から、昨年6月にこの安心・安全の科学研究教育センターが設立されました。

本センターの現在の業務は、(1)大学院修士課程および博士課程の学生に対して、安心・安全な社会の構築のための人材育成を目的とした教育、(2)社会人に対して安心・安全科学の再教育、(3)安心・安全の科学に関する研究開発を行うこととなっています。

現在行っている業務としては、まずセンターを拠点に、文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」を、全学の各研究科、学府の先生方にご協力いただきながら実施しています。これは、全学の大学院生を対象に、災害や事故等についての科学的知識やリスクの概念、リスクの低減・回避とリスクコミュニケ

ーションの方法論を人文社会科学と自然科学との両面から、講義だけでなくワークショップ等の実践的な教育も行いながら、安心・安全な社会の構築に役立つ人材を育成することを目指しており、ユニット修了生には、独自の修了証が授与されます。今年度の学生募集については、ちょうどこのニュースがお手元に届く頃にはじまります。ぜひ、身近の学生さんに当センターと育成ユニットをご紹介いただければと思います。

また、社会人教育については、昨年度2回のセミナーの実施や産学交流会等の開催に協力を致しました。今年度は、文部科学省科学技術振興調整費の社会人再教育のカテゴリーに応募申請しているところです。

安心・安全に関する研究開発については、全学の先生方に協力していただきながら、文理融合型のプロジェクト研究を科研費などに申請しています。

今年度は、各部局からもさらに積極的に本センターの活動に参画していただいたり、各部局にセンターが連携をさせていただいて、安心・安全への様々な取り組みを推進したいと思っています。

4月からは、育成ユニットに新たに特任教員として小林英男教授、センターの専属の事務補佐員として河村麻子さんが加わり、このセンターニュースの発行をはじめ、活動を広げていきたいと思っています。

なお、この「安心・安全の科学研究教育センターニュース」は、1年に3回程度の発行を予定しています。

「センター活動のお知らせ」だけではなく、「社会や大学内の最新の安心・安全に関わる動き」などについても情報発信をしていきたいと思っており、皆様からも情報提供やご執筆、ご意見をいただき、よりよいセンターニュースにしたいと思っています。よろしくご協力をいただけますようお願い致します。

「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の概要

人材育成ユニット実行委員長 岡 泰資

1. ユニットの目的と概要

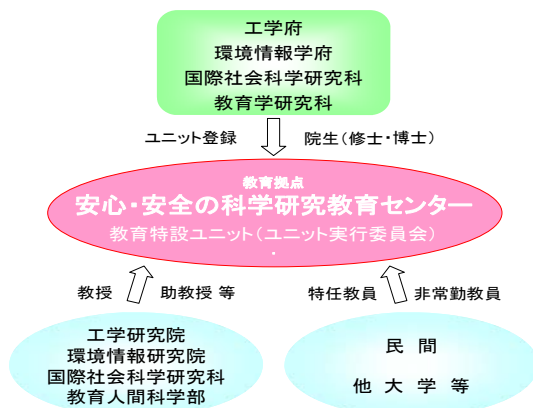
リスクマネジメントの手法を的確、かつ総合的に適用できる手法を身につけた人材を育成するため、大学院レベルの教育プログラムである「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット(以下本ユニットと呼びます。)」を昨年度発足させました。本ユニットは、文部科学省科学技術振興調整費により平成16年7月1日から平成21年3月31日の5年間にわたり、安心・安全の科学研究教育センターを拠点として開設しました。本ユニットでは自然科学の知識や人文・社会科学の知識を駆使することにより、具体的な実務上の課題に対しての解決をリスクの概念を使って図って頂くための教育プログラムを組んでいます。

本ユニットでは、履修者自らがリスク分析の先進的な技術の実習を行い、お互いの討論等によってコミュニケーション能力の向上を図っています。これにより、リスクマネジメントを実践できる手法を身につける教育を行い、5年間で修士レベル130名、博士レベル5名のリスクに関わる専門職に従事可能な人材を育成し、社会に輩出する予定です。

2. ユニットの実施体制と修了要件

実施体制を下図に示しました。本ユニットでは、本学大学院での教育・研究の内容や将来の就職等において、リスクマネジメントに関連する分野を強く志向する全研究科・学府に在籍する大学院生を対象としています。このため本学所属の教員および特任教員の13名で構成されたユニット実行委員会(教育ユニットの管理と推進、教育方法・カリキュラムの検討、単位・修了要件の確認等)を中心に、全学の協力体制のもと本ユニットが運営されています。本ユニットの修了要件は、所属の研究科・学府の修了要件を満たし、かつ必修のユニット特設科目の修得および関連科目群から2科目4単位以上の修得です。この要件が確認されればユニット修了が認定され、「ユニット修了証」が授与されます。

3.



平成16年度のユニット実施概要

10月の実質開講までに、本ユニットを全学レベルで具体的に運用するための教育システムの整備および参加を希望する学生を募集しました。その結果、ユニット登録学生においては、2科目4単位までの研究科・学府間の単位互換(これらの単位が修了単位として認定されるかは各研究科・学府に依る)が認められるとともに、当初の予定を越える22名の修士学生および2名の博士課程の学生をユニット登録学生としました。

ユニット推奨科目として「リスクマネジメントのための技術者倫理A, B」、「リスク管理におけるヒューマンファクターズ」、「産業と安全」、「安全文化比較/安心感の文化的基礎」、「実践的災害リスクアセスメント論」といった6科目の新設に加え、各研究科・学府で開講している33科目を関連科目に位置づけた科目群を開講しました。さらに、本ユニット特設科目である先進的なリスク分析技術に関連した「リスクの分析とコミュニケーション」、リスクコミュニケーション手法に関連したワークショップである「リスクコミュニケーション・ワークショップ(以下RCWS)IA」をユニット必修科目として開講しました。

4. 平成17年度のユニット実施予定概要

平成17年度は、既登録学年進行学生24名に加え、新規登録者として修士40名および博士2名を予定しています。またユニット推奨科目として、「安心・安全文化教育論」および「リスクマネジメントと社会技術」の新規2科目を追加した計8科目を位置づけるとともに、各研究科・学府が開講予定の37科目を関連科目群として開講の予定です。平成16年度に開講した本ユニットの中核かつ必修科目に加え、新たに必修として「RCWS-IB」および「RCWS-II」を開講予定です。また「RCWS-IA」においても、履修生の増加に合わせてテーマの増加を予定しています。上記の教育を実施するため、教育スタッフ(教員, RA等)を中心にユニットの教育システムの拡充整備を行います。RCWS-IA, IBおよびIIの実施概要は、募集要項をご参照ください。

5. まとめ

安全で安心できる社会の創生を目指すわが国にとって、リスクマネジメントシステムの企画立案・計画策定・事後評価、安全管理の企画と実施、さらに地域住民との共生のためのパイプ役を担う人材はますます重要性を増しており、このような人材養成を目指したトライアルプログラムへのご理解とご支援をお願いいたします。

教職員の紹介

安心・安全の科学研究教育センター教職員

センター長 関根 和喜

横浜国立大学大学院工学研究院教授（併任）

初代のセンター長を拝命して、およそ10ヶ月が過ぎました。当初、部屋もなく出発したセンターですが、全学の皆様の御支援のお陰で、この間に部屋もつくられ、教職員も現在では私を含め11名を数える程になりました。感慨無量です。皆様に愛されるセンターとして“安心・安全の科学”という21世紀の新しい学問領域の創生に向け、努力していきたいと思っております。

助手 小林 剛（工学研究院兼務）

前職：横浜国立大学大学院工学研究院助手

センターに配置換えとなり9ヶ月が過ぎました。知らないことの多々ある中、事務をご担当いただいている工学研究院等事務部の皆様や、様々な事業に部局を越えてご協力いただいた教職員の皆様には、本当にお世話になりました。専門の環境安全分野をはじめ、社会の安心・安全に貢献したいと思っています。

技術職員 鈴木 雄二

前職：横浜国立大学工学研究院等技術職員

主に当センター関連の社会人セミナーや研究・開発の企画・運営などに携わっております。安心・安全は対象範囲が広く、各分野の方々との連携が大切であると感じております。どうぞよろしくお願ひいたします。

事務補佐員 河村 麻子

4月からセンターに勤務することになりました。勉強しなければならぬことばかりですが前向きにがんばっていきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

高度リスクマネジメント技術者育成ユニット

特任教員（教授） 田村 昌三

前職：東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

平成16年7月より、当センターの所属で、高度リスクマネジメント技術者育成ユニットに参加しております。私の専門はエネルギー物質、安全、環境の化学です。最近、新燃料、新燃料システムの安全に関わっていますが、ユニットでは安全への高い感性をもち、ベネフィットとリスクのコンセプトを基に科学的議論ができる人材育成を目指したいと思っております。



特任教員（教授） 小林 英男

前職：東京工業大学大学院理工学研究科教授

40年にわたって材料力学・破壊力学の教育研究と、事故解析・規格作成・安全とリスクの啓蒙活動に携わってきました。最近続発している企業の事故・不祥事は、企業経営におけるリスクマネジメントの欠如に尽きます。新たな安心・安全の社会システムを構築するための社会技術について、その手法としてのリスクマネジメントを中心として、教育研究を推進します。

特任教員（助教授） 丹羽 雄二

前職：関西電力原子力安全システム研究所首席研究員

関西電力で25年間、原子力発電の現場と研究の業務をしてきました。原子力はリスク評価が盛んな分野で、その経験を基に今話題となっている人間のエラーも含めた総合的な実学のリスク評価法をお伝えしたいと思っています。1979年大阪大学大学院修了、工学博士（京大）、ヒューマンインタフェース学会評議員、原子力学会部会幹事、内閣府原子力安全委員会専門委員。

特任教員（助教授） 村上 史朗

前職：神戸大学大学院文化科学研究科 COE 研究員

社会心理学を専門分野とし、これまでは主に文化的規範と公正感を研究のトピックとしてきました。リスクコミュニケーションが単なる「専門家のもつ正しい知識の普及」だけでは効果的に機能しないことは、近年重視されてきています。正確な知識の普及に加え、市民の態度や世論が醸成される過程に注目するという観点から、教育・研究に貢献したいと考えています。

特任教員（助手） 古屋 貴司

前職：横浜国立大学大学院環境情報研究院教務補佐員

高度リスクマネジメント技術者育成ユニットに携わって9ヶ月、社会人となって2年目に突入です。在学中は地理情報システムを活用して、様々な分野の情報・知識・人材を連携していくことを試みてきました。センターでも、GISを関連の教職員・院生の皆様から刺激を受けながら演習で展開していきたいと思ひます。

技術補佐員 池上 章代

ユニットに関連する様々な業務を行っています。履修登録学生の皆様にスムーズに講義を受けていただける様、より一層工夫をしまひたいと思ひます。

非常勤講師 首藤 由紀

(株)社会安全研究所

取締役 ヒューマンファクター研究部長

講義：リスク管理におけるヒューマンファクターズ

センターからのお知らせ

安心・安全関連の学内外の動き

- ❖ 毒劇物などの化学物質管理を促進するために、全学に先駆けて、物質工学科でネットワークを活用した化学物質管理システムの導入がはじまります。次年度からは、全学に導入される予定です。
- ❖ 環境配慮活動促進法が今年度より施行され、本学も特定事業者として、環境報告書の作成が義務づけられました。
- ❖ 本学と横浜市大との医工連携事業の一環として、横浜医療安全研究会が発足しました。第2回の研究会は6月23日に行われます。

センター関連のセミナー・講演会など

第3回 イブニングセミナー

主催：安心・安全の科学研究教育センター新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」、大阪大学新興分野人材養成プログラム「環境リスク管理のための人材養成」

日時：4月13日、午後2時～3時

場所：工学研究院大学院棟7階中会議室

大阪大学新興分野人材養成プログラム「環境リスク管理のための人材養成」の代表者、盛岡通教授によるご講演「環境リスクと人材養成」があります。(無料)ご関心のある先生、学生の皆様方はぜひご出席下さい。

安全・健康・快適フェア(安全衛生総合展 2005)

主催：(財)全国安全会議、中央労働災害防止協会

日時：5月18日～20日

場所：東京ビッグサイト

関根センター長による特別セミナー「安心・安全のためのリスクマネジメント技術者を育てる」や、展示ブースで本学の安心・安全関連の研究・教育アクティビティのパネル展示などを行います。招待状がありますので、ご希望の方はセンターまでご連絡下さい。

参考：http://www.jisha.or.jp/event_campaign/event/akkfair/

全国安全週間「横浜北地区推進大会」

主催：(社) 神奈川県安全衛生協会横浜北支部

日時：6月2日(木)

場所：横浜市港北公会堂

全国安全週間準備期間にあわせて横浜北地区で行われる安全衛生推進大会です。関根センター長による特別講演が行われます。

編集後記

- ❖ 100号目指して頑張りたいと存じます。(T)
- ❖ 皆様のご支援によりセンターニュース創刊号ができました。ありがとうございました。(Y)

文部科学省

科学技術振興調整費新興分野

人材養成プログラム

高度リスクマネジメント 技術者育成ユニット 履修生(大学院生)募集!

登録期間 : 4月7日～15日

問い合わせ : TEL 045-339-3772

募集要項配布: 理学研究棟302号室

<http://www.anshin.ynu.ac.jp/jpn/unit/index.htm>

※先生方へ: ゼミや研究室の学生さんへの周知をお願いします。

安心・安全センターの所在

中央図書館近くの理学研究棟の3階にあります。ぜひ一度、お立ち寄り下さい。



『ご意見・ご質問、記事掲載依頼などお寄せ下さい』

安心・安全の科学研究教育センターニュース

創刊号 2005年4月11日発行



国立大学法人 横浜国立大学
安心・安全の科学研究教育センター

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5
(理学研究棟3階301, 302号室)

TEL: 045-339-3772 (高度リスクマネジメント技術者育成ユニット)
045-339-3775, 3776 (社会人教育, 研究開発ほか)

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: anshin@ynu.ac.jp